

第2回

ピリカノカ 風の吹く岬より

2回目のすけっちびよりは、風の町えりもへ。

真っ先に向かうのは岬にある「風の館」だ。ここから見える岬の風景の、強い風に削られた地形とその向こうの水平線の雄大さに心を奪われてしまう。日の出も日没もとても美しい襟裳岬は国指定文化財「名勝ピリカノカ（美しい形）」に指定されている。また、岬に生息する人気者のゼニガタアザラシも風の館の望遠鏡から見る事ができる。

数年前、えりも町の絵本作りに携わることになり、郷土資料館の中岡さんに「アイヌのチャシ跡」とされている場所や町の歴史、ポイントとなる場所に案内していただいた。何気ない風景も、その土地の歴史を知ると、見える風景が一変する。以来、訪れるまちの歴史や成り立ちをなるべく知るようになっている。

えりも岬の広い原っぱには、知る人ぞ知るファームインがある。短角牛の牧場主の高橋さんが営む「守人（まぶりっと）」だ。風の吹く丘にぼつんとあり、真っ暗な夜は風の音以外聞こえない静寂さに、地球のおへそのようなくぼみにいる気持ちになる。翌朝、牧場の方へ散歩に行くと朝もやの中、遠くに牛たちが草を食べている。幻想的な風景をぼんやり眺めていると、遠くにいたはずの牛たちがゆっくりこちらに集まってきた。見慣れない人間を見つけて見物しにやってきたのだ。人懐っこい短角牛らしい。

えりもには何もない〜といわれるけれど、えりもには都会ですでに失って見つけられないものがたくさんあるのだ。

* えりも町郷土資料館「ほろいずみ」・水産の館のHPでは絵本「海からきた少女」（すずきもも著）をPDFでご覧になれます。
<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に『さっぽろ おさんぽ日和』『わくわく おやつ手帖』（どちらも北海道新聞社刊）、近著に絵本『はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？』（アリス館）などがある。また、食の活動として13年続けた「スローフードフレンズ北海道」からのれん分けで「スローフードさっぽろ」を2016年に立上げ、食を中心に環境や暮らしの未来について、学び実践している。モットーは四つのS、「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



ゼニガタアザラシ
風の館から見るほか、
シロヤクツアアで
岩場で見ることも
できる。



ツブ
3月-10月
113mの
ツブ
が
とれる。



銀毛鮭
8月下旬ころから



えいもの
おいしい
もの*

短角牛

日高こんぶ
7月が漁期

「守ん」の
焼肉店
「やま」で
食べることも
できる。

